

## 平成26年度事業報告

### 1 公益目的事業

#### ① 対馬丸記念館の管理運営事業

##### ア 常設展事業

平成26年度は対馬丸記念館が開館して10周年になり、また、対馬丸が撃沈されてから70年になる節目の年であった。公益財団法人として記念館の展示を通して対馬丸事件の歴史と教訓を伝えながら、二度と悲しみを繰り返さない「学びの場」になり、子供達に平和の種を蒔く施設として、記念館の管理運営に万全を期すと共に展示資料の整備保存等に努めた。

そして、平成26年6月27日には対馬丸犠牲者の慰霊のために、記念館と小桜の塔に天皇皇后陛下の行幸啓があった。

##### イ 特別展事業

#### (ア) 沖縄タイムス社主催第62回全琉図画・作文・書道コンクール「那覇秀作展」開催 観覧者1,707人

期間：平成26年12月26日～平成27年2月1日

展示：那覇市内小学校24校、181点 中学校12校、108点の作品（図画・作文・書道の最優秀賞・優秀賞）

感性と知性の調和のとれた子供の成長を促し、子供たちの自由な表現から改めて平和の大切さを感じてもらうことを目的とする。

児童・生徒の作品を見るために家族や親族で来館する人が多く、本展示会を通して学校、地域との結び付きができ、対馬丸を知って貰う良い機会になった。

#### (イ) 収集資料が語る「対馬丸」と「小桜の塔」Part 1

～新聞資料から、対馬丸事件後70年と慰霊碑建立60年をたどる～ を展示テーマに開催 観覧者2,752人

期間：平成26年8月22日～9月30日

新聞資料から遺族会の歩みや小桜の塔建立、海上慰霊祭等を振り返り、改めて悲慘な対馬丸事件の重みを伝えた。

併せて、新収集資料展を併設展示した。寄贈された漁船乗組員の手記を始め、対馬丸関連報道がきっかけで持ち主からの情報提供によって収集した資料を中心に展示した。対馬丸機関長が生前に子供達へ宛てた軍事郵便、

戦後自責の念を背負い静かに一生を終えた訓導の書き遺したノート等を公開した。

- ウ 対馬丸及び学童疎開に関する調査・研究事業  
対馬丸の悲惨な歴史に関する証拠資料の収集に努め、学童疎開について調査研究をした。

## エ 来館促進支援事業

(ア) 沖縄修学旅行誘致説明会（主催：沖縄コンベンションビューロー 於：大阪 来場者 79 人 出店数 33 店）に参加。対馬丸記念館紹介のプレゼンテーションを実施すると共に、会場でリーフレットの配布、語り部派遣の案内を行った。その後、本説明会に参加した近江兄弟社中学校生 250 人の記念館来館と語り部講話があった。

(イ) 沖縄県修学旅行推進協議会平和学習分科会（県主催）に参加し、修学旅行における平和学習の課題等について意見交換した。

平成 26 年度入館者数…添付（p 8）

## ② 対馬丸戦没者の追悼と遺族等の福祉の向上並びに地域住民との交流促進

### ア 対馬丸戦没者の追悼と慰霊祭の挙行

8 月 22 日に小桜の塔前で慰霊祭を挙行し遺族、生存者、関係者で犠牲者の冥福と世界の恒久平和を祈念した。参加者約 400 人

### イ 語り部事業

生存者や遺族等の語り部による県内外での講話、小中学校等からの依頼に応じて講話を行った。

実績 延べ 164 回 内訳：館内 95 回・館外 69 回（県外 5 回を含む。）受講者：延べ 20, 169 人

### ウ 相談事業

那覇市社会福祉協議会の資格を有する経験者に依頼し第 2・第 4 木曜日に（22 回）デイケアを行い、その他健康や各

種年金に関することなど遺族、地域の高齢者等に対し助言・相談を行った。

## エ 講習会及び遺族と地域住民との交流促進

遺族等が健康で不安なく生活していけるよう、医療関係者や対馬丸の歴史や平和活動など様々な活動を行っている方を講師として、年2回「ちゃーがんじゅー講座」開催

(ア) 平成26年10月18日(土) テーマ:「響け平和のふるさとへ」

講師: 沖縄女子短期大学教授 小波津美奈子 氏  
平和を伝える合唱団として演奏活動をしている金武町少年少女合唱団(13人)、つしま丸児童合唱団(14人)と共に沖縄民謡や童謡を歌い、歌詞の解説も行った。民謡や童謡を盛り込んで地域の人々や高齢者とともに歌いながら、交流を深めて平和とは何かを見つめ直す機会を持った。60人参加

(イ) 平成27年2月21日(土) テーマ:「きれいな歯でいきいき人生」

講師: 医学博士 たから歯科院長 高良 政勝 氏  
歯科医師の立場から虫歯が身体に及ぼす害について虫歯、歯周病は進行すると肺炎、動脈硬化、糖尿病の危険因子である為、歯磨き、定期検診、早期治療の大切さを説明した。

児童への生活指導や咀嚼することが寝たきりを防ぐことに繋がり、健康でよりよい生活を創って精神面の充実に重要な役割をはたすことが分かった。30人参加

## オ 広報活動

(ア) 広報誌「対馬丸通信」を2回発行。遺族や生存者及び協力会員、支援者などに配付し、対馬丸記念会の活動紹介と対馬丸記念館の運営状況等を紹介した。

(イ) 「移動教室年鑑 体験学習」に対馬丸記念館の広告掲載を行った。

同書は全国の殆どの小・中・高校、図書館、地方自治体等50,000ヶ所に配布され、校外授業の手引きとして活用されている。

③ 子供達に対馬丸の悲惨な歴史を伝え平和を発信する事業

ア 子供達の平和学習推進事業

(ア) 平和学習推進連携委員会を2回開催した。

那覇市内小・中学校平和担当教師研修会、平和学習作品展、対馬丸事件及び沖縄戦に関するアンケート調査等の実施について那覇市教育委員会指導主事

(平和行政担当)、平和専門家、那覇市内小・中学校教師各1名、対馬丸記念会理事長の5委員で協議

(イ) 那覇市教育委員会と共催で第2回那覇市内小中学校平和教育担当教師研修会を開催した。

(ウ) 対馬丸事件・沖縄戦に関するアンケート調査(H25、26、27年度実施予定)2年目として那覇市内小学校18校の5・6年生及び教員の悉皆調査を実施した。

(エ) 第2回子供平和会議開催

会議テーマ「高校生のための国際政治学～グローバルシティズンシップを踏まえて～」

コーディネーターによる基礎知識の講義・指導の下、沖縄尚学高校、那覇国際高校など私立・県立6高校の生徒60人によるグループ討議を実施

20世紀以降の脱植民地と民主主義、尖閣問題とイスラム国のテロの問題について活発な議論展開となった。

参加した高校生たちが、地球社会の一員として自覚、行動する考えを身につけ、国際政治の問題について解決策を見つけ出すきっかけ、判断軸を形成することができたと考えられる。平和な社会を形成する主体になっていくものと期待される。

イ 子供達による平和活動発信事業

対馬丸記念館を通して、子供たちが日常的、主体的に平和活動、平和発信が行えるようにすることを目的とする事業として、「つしま丸児童合唱団」(活動日4回/月・於：記念館)の活動を推進した。合唱団は、記念館での活動成果を発表すると共に、対馬丸慰霊祭、親子平和コンサート in 糸満、うるく童まつり等に出演して活動の成果を披露し、観客とともに平和への誓いを新たにした。

また、前年度から継続して那覇市立天妃小学校5年生の平和新聞、那覇市立安謝小学校全児童の対馬丸乗船者1,661人の垂れ幕、沖縄市立島袋小学校5・6年生の紙芝居、壁新聞を展示。

2 収益事業「物品販売・会議室賃貸事業」

実績：自動販売機2台の販売手数料収入（150,146円）  
書籍「対馬丸 沈む」の売上金収入（52,542円）

3 その他事業「旭ヶ丘公園周辺緑化事業」

対馬丸記念会と首里城下にチョウを翔ばそう会、首里城公園管理センターで共催して、旭ヶ丘公園において児童生徒、地域住民など約200人が参加してチョウの食草（ホウライカガミ、トウワタなど6種・約600本）植栽を行った。

平和の象徴であるチョウが小桜の塔に眠る犠牲者の慰霊とともに、公園を訪れる人々を和ませ、命の尊さを実感して貰うことを念願して実施した。

4 法人会計「管理事業」

対馬丸記念館の管理運営を実施すると共に、対馬丸記念会理事会及び評議員会の開催、庶務経理業務等を実施した。